

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称：株式会社 マスネットワーク	所在地：長野県松本市中条 1-14
評価実施期間：平成 29 年 8 月 1 日～平成 30 年 3 月 8 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050192 060861 060773 050231	

### 2 福祉サービス事業者情報（平成30年2月現在）

事業所名：社会福祉法人ジェイエー長野会 （施設名）特別養護老人ホーム あさぎりの郷	種別：介護老人福祉施設
代表者氏名：理事長 油井 博一 （管理者氏名）施設長 篠田 肇	定員（利用人数）： 80名
設置主体：高森町 経営主体：社会福祉法人 ジェイエー長野会	開設（指定）年月日： 昭和（平成）14年 4月 1日
所在地：〒399-3102 長野県下伊那郡高森町吉田 481-1	
電話番号：0265-34-3630	FAX 番号：0265-34-3680
ホームページアドレス： Asagiril@bz04.plala.or.jp	
職員数	常勤職員： 38名 非常勤職員 19名
専門職員	（専門職の名称） 名 介護支援専門員 1名
	看護師 4名 管理栄養士 1名
	機能訓練指導員 1名 介護福祉士 30名
施設・設備 の概要	（居室数） 60室 （設備等）

### 3 理念・基本方針

基本理念・・・もう一つの我が家 ・利用する人の立場に立ち、個人の人権を尊重し、気軽に利用でき、家庭的な雰囲気での入居者同士のコミュニケーションはかれる施設とします。 ・地域交流センターを中心に、開放的で年齢を問わず、地域の方が気楽に立ち寄れる施設とします。 ・協力医との連携により、保健診療・口腔ケアの指導と歯科診療の充実をはかります。 ・利用者の身体状況に合わせた、おいしく温かい食事提供を安定して提供します。
--

### 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

社会福祉法人ジェイエー長野会としての、取り組みである「利用者様にも介助者にもともにやさしい介護」を特徴とした北欧式トランスファーの推奨を積極的に行っています。職員の腰痛予防にも努め介護機器の導入なども積極的に行っております。
--

### 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	4回（平成26年度）
---------------	------------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

### ◇特に良いと思う点

#### <サービス実施計画書の策定>

利用者・家族から生活歴・利用者・家族のそれぞれの希望や意向・これからの人生（看取りを含め）日々の家族との関係・趣味・性格等詳細に丁寧な聞き取りを実施してアセスメントしている。施設内においては機能訓練指導員・管理栄養士をはじめ利用者に関わる多職種の職員はアセスメントに必要な事項を文書で提出しモニタリングに備えている。会議によりアセスメントに基づく利用者一人ひとりのニーズを把握しサービス実施計画が組織的に策定されている。担当者会議なども含めて、PDCAサイクルが継続的に実施され質の向上につながっている。

#### <利用者・職員にとって優しい介護の取り組みと機能訓練>

ジェイエー長野会として、北欧式トランスファーを取り入れている。数年前に職員を北欧の研修に派遣し、リフトや様々な福祉用具を活用した移動・移乗の介護を学んで実践することを継続的に取り組んでいる。また、機能訓練指導員がおり、個別機能訓練計画を作成して、利用者の心身の状況に合わせて機能訓練や介護予防活動を行っている。月2回理学療法士の訪問もあり、個別リハビリテーション、集団リハビリテーションの他、日常生活動作の中で、立位や歩行、移乗等意図的に機能訓練や介護予防活動が支援できるように配慮している。

### ◇改善が求められる点

#### <マニュアルの整理と見直し>

医療関係・事故防止及び対策に関するもの・入浴・排泄・感染症対策・防災等のマニュアルを備えてある。中には同じ名称や内容のマニュアルが混在し、作成年月日もかなり経過しているものもある。また、マニュアル内の表現や連絡先等に現在使われていない記述もある。標準的実施方法の統一を図り職員が共通して質の高い福祉サービスを提供するためにも直近の技術・知識を学べるマニュアルを整備されることが望まれる。また定期的な見直しを期待したい。

#### <あさぎりの郷としての育成に向けた取り組み>

職員一人ひとりの育成に向け、キャリア段位制度の研修を受講している。今後、あさぎりの郷としての「期待する職員像」を明記し、職員と面接を行いながら、部門及び職員個々の目標管理を設定し、進捗状況の確認そして目標達成度の確認を行い、更にスキルアップを図りモチベーションを高める取組みを望みたい。また、自己評価や第三者評価の受審のプロセスなど、日々の取組みと共に、あさぎりの郷としてPDCAサイクルに基づくさらなるサービスの質の向上に向け、職員一人ひとりの育成と併せて取組みを明確にされる事を期待する。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目(別添1)

内容評価項目(別添2)

## 8 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合（別添3-2）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

平成30年3月16日記載

当施設の事業運営を定期的に検証する第三者評価は有意義な取り組みであると感じました。今回の受審の中で、今まで気づかなかったいくつかの点やまだまだ改善されていない点の「気付き」を頂きました。「特に改善する必要があると思う点」については、課題を見出しながら、早急に改善して参りたいと考えております。今後においても、「利用者がその人らしく安心して安全で満足できる生活を送ることができる」様サービスの提供に努めて参ります。